

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1 参加者 L 宮島、西尾、西、仲島

2 山城・ルート 大峰/神童子谷

3 交通手段 車

4 行動記録

7/14(土)-7/15(日)

1日目	山行	3時間39分	休憩	15分	合計	3時間54分
-----	----	--------	----	-----	----	--------

S	スタート地点	11:36	13:00	赤鍋の滝	13:15	14:30	鎌滝	15:30	宿泊地	泊
---	--------	-------	-------	------	-------	-------	----	-------	-----	---

2日目	山行	5時間23分	休憩	5時間0分	合計	10時間23分
-----	----	--------	----	-------	----	---------

泊	宿泊地	07:12	07:30	ノウナシ滝	08:15	千手滝	09:15	09:35	地蔵滝	11:00	脇の宿下のコル	11:30
12:15	大菩薩岳	12:44	13:31	国見岳	13:45	稚児泊	14:15	15:00	ノウナシ谷	17:31		
17:35	ゴール地点	G										

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a 山行は予定の内容・日程で行動出来たか

おおむね予定通り。快晴の三連休で道路が混んでいたため入渓時刻が2時間ほど遅れた。

二日目はオソゴヤ谷の下降を3時間半でスムーズに降りられたので、予定通り1泊2日で抜けられた。

b 事故に繋がりそうな要因（ヒヤリハット）が発生したか 発生した場合は具体的に記す 特になし。

c その他、ルートに関する情報・気がついた事等

<神童子谷>

- ・ノウナシ滝は巻きすぎないように注意

- ・千手滝は右手のルンゼを少し登り、左へトラバースしてから登って突破が正解。

ただし馬頭滝を見たければ、沢まで左へトラバースして一度落ち口へ出る必要があるようだ。

(我々は馬頭滝を見ず)

- ・地蔵滝が一番きれいだった

<オソゴヤ谷>

- ・谷自体は荒れていて遡行の魅力がないものの、難しいところはないため、簡単に下降できる。

- ・稜線(稚児泊)からオソゴヤ谷に降りる斜面が一番の肝で、浮石が多く落石に注意。

- ・一か所だけドラム缶滝で懸垂下降をした。

- ・国見岳から西へ続く尾根伝いに降りると最後はモノレール道に出て2時間ほどで下れるようであり、これが最速の下山方法のようだ。

6. その他(登攀システム)

お助け紐を岩や木にタイオフしたあとに下から別のお助け紐で回収するシステムを教えてもらった。なるほどのシステム。

以下ヤマレコより

3連休を利用して本当は四国の沢に行く予定だったが、リーダーの闘将が仕事で参加不可ということで(残りのメンバーでは登れないため)行先変更。どこに変更するか、残りの参加者でメール上で激しいバトルがあり、さらには金曜夜発が不可な参加者も出て、自分も仕事で疲弊しており2泊3日行く気力も失せたので、1泊2日で大峰の沢に行くことにした。

3人がおのおの3箇所の変替案を提出しても、結局は9箇所の変替案が示されただけで、まとめる人がいないのでまとまらない。強いリーダーがいれば組織は引き締まるが、逆にリーダーの存在が強すぎるために、リーダー不在時にまとまらないという諸刃の剣。計画書上自分がリーダーになったが、計画書とルート研究は提案者に丸投げした。出発前夜に確認したらルートが間違っていることに気づいた。いろいろとグダグダ感があったが、結果的にはいいルートで充実した1泊2日だった。珍しく快晴の3日間だったので、強欲を言えば当初予定の2泊3日で四国の沢に行ければ最高だったが。

快晴の3連休ということで高速も下道もそこそこ混雑していた。入渓時間が当初予定よりも2時間ほど遅れそうなので、1泊で抜けられるかぎりぎりのタイミングに。あらかじめ2泊になるかもしれないということを予防線として事前に関係各位に連絡。

入渓地点は橋の下にコンクリートの歩道が見つかり、迷わず入れた。こういうルートファインディングはいつも我ながらうまい。さっそく釜に入ってみるが、水が冷たい！下界は猛暑だが、沢の水は逆にずっと浸かれぬほど冷たい。ギャップに驚きつつ進む。②赤鍋の滝ではロープを出してみたが、思ったよりも簡単。ただ滑りやすい。③鎌滝では先行Pの若い方々が絶妙な石アートを作成中。魚も泳いでいたが先を急ぐ。泊適地にはすでに立派なテントが一張り。見事に泊適地。その上の4m滝は右岸を巻くが、ちょっとだけ微妙で注意。イハシ谷手前付近で泊。

焚火をするが、相変わらずの下手さで、2時間かかってもうまくつかない。youtubeで勉強するようにお達しがでる。蛍の光が見えてきれい。上部にも星がかなり出ているみたいだが、残念ながら樹林であまりよくみえない。21時に就寝。朝は4時半にいち早く起きて再度焚火をおこすがやっぱりうまくいかない。他人にまかせる。

出発してすぐに④ノウナシ滝。結構大きく高巻く。さらに高巻きすぎそうになる先頭を制して落ち口に降りる。相変わらずルートファインディングができる俺(2回目)。すぐに⑤千手滝。滝の右のルンゼから登るが、千手滝のすぐ右手の岩場にピンクテープがあるのに気が付く。おそらくこのテープ沿いに登らないと馬頭滝を見逃して登ってしまうのではないかと感じたが、そうすると登攀に時間がかかり面倒なので、気にせずルンゼから高巻く。途中のトラバースがいやらしいのでザイルを出す(2回目)。先頭はやはりそのまま登ってしまい、馬頭滝は見逃したが、途中で落ち口に降りるのも面倒なので問題ない。ただ登っている途中に馬頭滝を見逃すことになることに気が付いた自分はルートファインディングができて(3回目)。⑥地藏滝はきれい。ノウナシ滝は高さだけ。その後脇の宿谷左俣を進み、トイ状のナメを進み、2条4mが見えたところで遡行終了し、斜面を詰め

て主稜線のコルへ抜ける。

コルで着替えて、ここから2時間ほど主稜線を縦走したが、河童先輩が皿が乾いてやや遅れる。大普賢岳で昼食休憩を取り、稚児泊で河童先輩が力尽き？当初の下降地点よりも手前でノウナシ谷に下ることになる。下降始まりでいきなり単なる窪地(GPS参照)にハマってしまう。この時点ですでに14時だったため、2泊目も頭をよぎる。窪地を登り返し、西へまっすぐ降りるが、人跡なき斜面のため、地面に隠れた大岩もちょっと踏んだだけで転がる不安定な斜面で苦勞する。斜面の下部は岩斜面でこちらも不安定。なんとかオソゴヤ谷の沢筋に近づくと獣道？があり安定する。

オソゴヤ谷には難しい滝はなく、基本的に沢沿いを歩けば下れる。途中のドラム缶滝ではうまく巻けず7m懸垂をすることになってしまったが。

神童子谷は自然林で覆われており植生も豊かで美しかったが、オソゴヤ谷は杉の人工林で覆われており植生は貧弱。さらにワイヤーロープが上流から下流までひっきりなしに転がっており、沢中も倒木だらけできたない。泊適地もない。途中で林業小屋の跡があったがここも廃ビンだらけできたない。さらに下流では植林でやせた土壌が原因と思われる大規模な土砂崩れが起こっていた。今後も温暖化による豪雨も増えることから、いつまでも沢が同じ姿であることはないだろう。

最後はちょっとだけ面倒な高巻きをして橋に出て終了。3連休の中日ということもあり家族連れを中心に混んでいて天の川温泉には入れず、洞川温泉に入るも混雑で洗い場待ち。夕食はいつものところで麻婆茄子定食。今回は腹がすいていたのでだいぶ食べたが、やはり唐揚げを1個お持ち帰りになってしまった。

以上